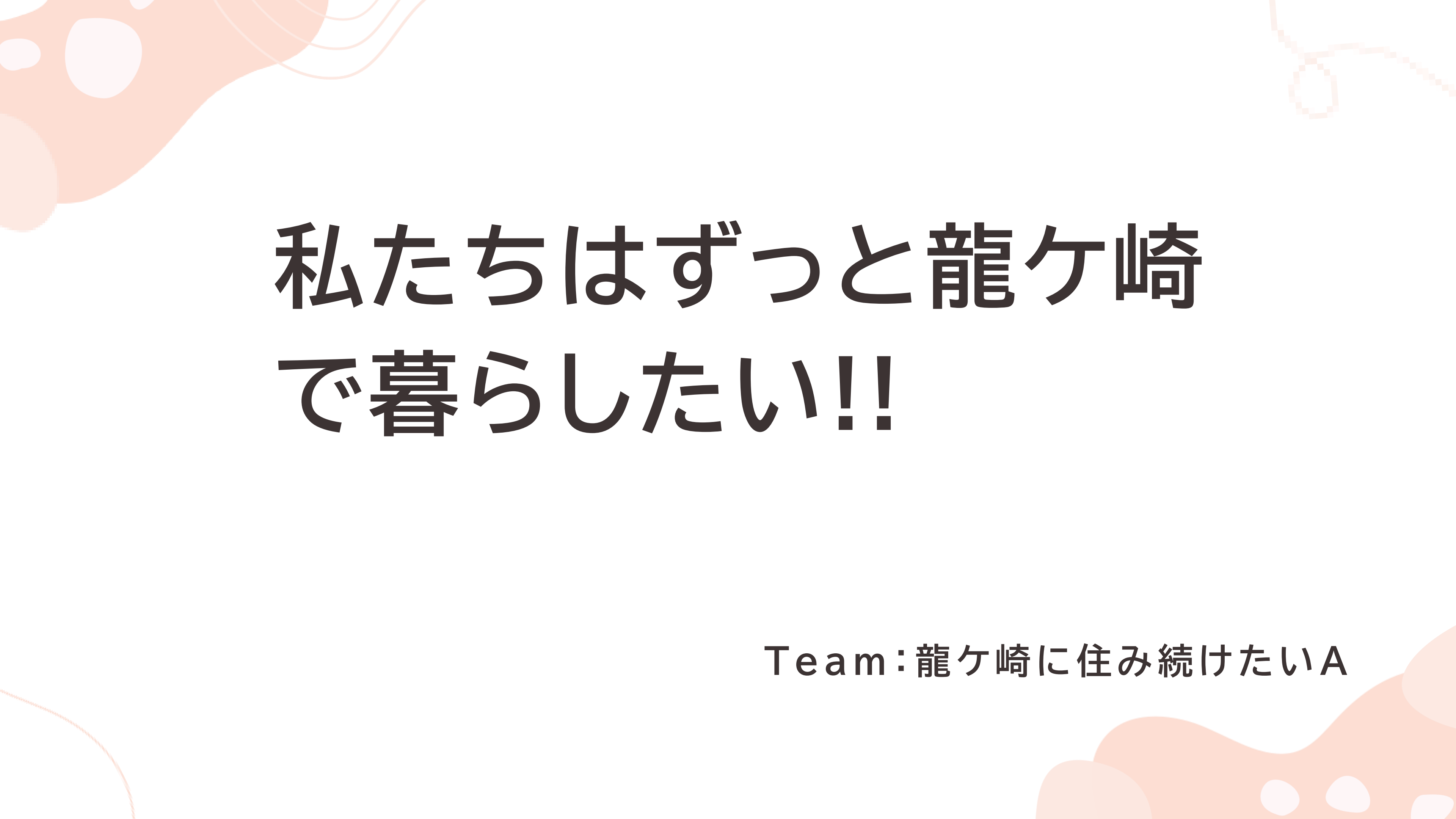




私たちはずっと龍ヶ崎
で暮らしたい!!

Team: 龍ヶ崎に住み続けたいA

- ▶ 自己紹介
- ▶ 私たちから見た龍ヶ崎
- ▶ 龍ヶ崎の未来予想図
- ▶ 私たちのストーリー
- ▶ 未来の龍ヶ崎へメッセージ

01_自己紹介

- ・出身：龍ヶ崎市
- ・在住：龍ヶ崎市
- ・龍ヶ崎の好きなところ：落ち着きがあるところ
- ・龍ヶ崎の課題：遊ぶ場所が少ない
- ・将来の家族像：家族と市内で暮らす

- ・出身：龍ヶ崎市
- ・在住：龍ヶ崎市
- ・龍ヶ崎の好きなところ：空気がきれい、ごみごみしていない
- ・龍ヶ崎の課題：交通の便、駅の周辺の開発
- ・将来の家族像：3～4人家族

- ・出身：龍ヶ崎市
- ・在住：龍ヶ崎市
- ・龍ヶ崎の好きなところ：地域のつながりがあり、人が温かいところ
- ・龍ヶ崎の課題：交通の便が悪いところ
- ・将来の家族像：一人暮らし

- ・出身：龍ヶ崎市
- ・在住：龍ヶ崎市
- ・龍ヶ崎の好きなところ：人があたたかいところ
- ・龍ヶ崎の課題：駅前の発展
- ・将来の家族像：龍ヶ崎に自分の大切な家族と住みたい!!

02 私たちから見た龍ヶ崎

良いところ

- ・ 人が温かく、地域のつながりが残っている
- ・ 特急が停まるので遠出しやすい
- ・ 建物、施設、自然の調和がとれている
- ・ スーパーがたくさんある
- ・ 地元の友達がいる安心感
- ・ 子どもも楽しめる地元のイベントが多い
- ・ 子育てを家族が援助してくれる
- ・ 公園が多い
- ・ 市の名前がかっこいい

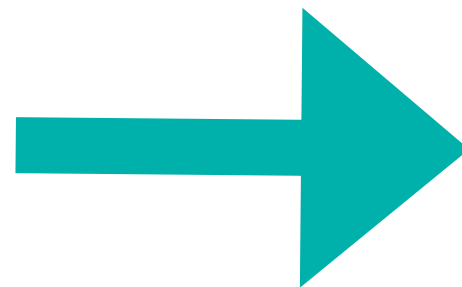
改善点

- ・ 仕事の職種・業種が限られる
- ・ バスの本数が少なく、電車とバスの接続が悪い
- ・ 交番が少ない
- ・ 駅前に飲食店が少ない
- ・ 子どもが少なく活気がなくなっている
- ・ 駅近に大きな病院がない
- ・ 駅前のロータリーが危ない

03_龍ヶ崎の未来予想図

未来に望むこと

- ・ 企業を誘致して、希望する職種で働ける
- ・ 常磐線特別快速をもっと増やしてほしい
- ・ 駅前がにぎやかになってほしい
- ・ きれいな駅近マンション
- ・ 同窓会ができる広いスペースがほしい
- ・ 駅前でイベントで市外から来る人が増え、交流の機会ができる
- ・ 子どもが来たくなる場所づくり、子育て世代が住みたくなる政策



そのためにできること

- ・ 龍ヶ崎から出発する高速バスを作り、交通の便をよくする。
- ・ 市のお祭りを龍ヶ崎市駅で開催
- ・ 龍ヶ崎で音楽フェスを開催。それに大学生が企画などで参加する。
- ・ 駅前のイルミネーションを盛大にする。

未来の龍ヶ崎へ私たちからメッセージ

「人も自然も、夢もつなぐ街、龍ヶ崎。」

04_未来story



Story

プロフィール

- ・ 名前：龍ヶ崎 舞（20）
- ・ 将来の職業：市役所職員
- ・ 家族構成：夫、子ども2人
- ・ 趣味：コロッケ作り
- ・ 将来の夢：お笑い芸人

■5年後(25歳)

舞は市役所職員として日々忙しく働いている。

その一方で、プライベートでは24歳で結婚し、25歳で第一子を出産。家族や地元の友達に支えられながら子育てを始めていた。

休日はスーパーで買い物をしたり、公園で子どもと遊んだり、地元のイベントに参加したりと、「生活に便利で、子育てに優しいまち」を実感している。

ただ、駅前の飲食店の少なさや、電車とバスの接続の悪さには、子連れでの移動で困ることも多かった。

舞は「子育て世代がもっと住みやすい龍ヶ崎にしたい」と考え、市役所内で若手職員として意見を出すようになっていた。夜は子どもが寝静まったあと、芸人になる夢を諦めきれず、ネタ帳を開いてアイデアを書き込むのが密かな楽しみだった。

04_未来story

■10年後(30歳)

28歳で二人目の子どもが生まれ、家庭はますますにぎやかに。

市役所では、地域活性化を担当する部署に異動となり、イベント企画に携わるようになった。

舞は「龍ヶ崎駅前で市のお祭りを開催する」プロジェクトを立ち上げた。

イルミネーションを盛大にし、学生や商店街の人を巻き込んだ企画は、県外からも人を呼び込み、駅前に活気を生み出した。

「駅前ににぎやかにしたい」という自分の願いが少しずつ形になっている。

家では、子どもたちを笑わせる日常ネタで家族に大ウケ。夫から「芸人より面白いよ」とからかわれるが、舞は本気で「いつか舞台に立ってみたい」と思い続けていた。

地元の友達とも同窓会を企画し、広いスペースがほしいという思いを行政に提案。

「舞ちゃんがいると話が進むね」と仲間から言われるたび、地域のつながりを守る役割を自分が担っていることを誇りに感じていた。

04_未来story

■15年後(35歳)

子どもたちは小学生になり、舞自身もキャリアと家庭の両立に自信を持つようになっていた。

市役所では、企業誘致や子育て政策を推進するチームの中心メンバーとして活躍。

「希望する職種で働けるように」「子育て世代が住みたくなるように」という若い頃からの願いを、施策に反映させる立場になっていた。

龍ヶ崎市では、大学生と連携した音楽フェスや駅前のイルミネーションイベントが恒例となり、外から来る人が増え、交流が広がっていた。

舞はその運営に携わりながら、時折イベントの司会や余興で「お笑いネタ」を披露。

最初は身内だけの余興だったが、今や「舞さんのステージを見たい」と言う声も多く、市役所職員とお笑い芸人——二つの顔を持つ存在になりつつあった。

夜、子どもたちが寝る前に舞はこう語る。

「お母さんね、龍ヶ崎がもっと楽しくて、住みたくなる街になるように頑張ってるんだよ。いつか本当に芸人さんになるかもしれないよ？」

子どもたちは目を輝かせて「なれるよ！」と答える。

舞は思う。

——自分はこの街に住み続けたい。

人の温かさも、自然と施設の調和も、子育てを助けてくれる家族も、すべてが自分の人生の土台だから。

そして、未来の龍ヶ崎市をもっと輝かせるために、これからも笑顔で走り続けようと。

05_未来の龍ヶ崎へ私たちからメッセージ

「人も自然も、夢もつなぐ街、龍ヶ崎。」



ご清聴ありがとうございました。

Thank you